

介護老人保健施設オアシス21 認知症ケア委員会&リハビリ

症 例 概 要 入所者：女性 80代 要介護3

病名 ：アルツハイマー型認知症、脳梗塞、高血圧症

経過 ：夫婦2人暮らしをしていたが、夫の緊急入院に伴い独居生活困難となる。子供の支援はあるものの、日常的な支援は困難。当施設認知症棟に入所歴があり、ご家族の依頼にて当施設入所される。

概要 ：混乱状態強く、多動・徘徊・不眠有り。環境への順応や信頼関係の構築を図れるようスタッフ一丸となって関わりを行い、徐々に自身の思いを表すようになる。ICFの参加に着目した関わりの中で笑顔が増え、他利用者さんと楽しみを共有できるようになる。時折混乱してしまう事があるが、スタッフの声掛けで穏やかに生活できるようになる。

内 容

同居家族の緊急入院に伴い独居生活が困難になり、去年9月末頃に当施設入所。

入所当初は混乱状態強く、表情陰しく施設内を歩き回り出口を常に見ていた。

1日中歩き回り、疲労困憊からふらつきが生じ付き添いが必要な状況も、対応する職員に不信感を表してしまう。夜間も居室へ入ることができず、出口前の椅子で夜を過ごす。認知症により発語が無く、簡単な声掛けは概ね理解できるも、yes/noの表出は曖昧。ご本人からの訴えが聞かれず混乱状態が1週間続いた後、とうとうダウンしてしまい気管支肺炎疑いの高熱を生じてしまう。

精神状態の安定を図るため、環境への順応や信頼関係の構築を図れるよう職員一丸となって関わりを行う。日々の日課や活動の声掛けを統一し、施設内での道迷いが多い為、席で動きが見られた際にはすぐに声をかけるよう徹底。出口を探したい様子があればご本人が納得するまでずっと付き添い、ご家族が緊急入院してしまった事や、ご家族も入所生活をしており入居者さんの事を心配している事を隠さずに伝えていくうちに、次第にスタッフの声掛けに落ち着いて反応を示すようになり、スタッフとの関係が構築されていきました。

ご家族よりご近所・ご友人との関わりを大切にしていたとの情報から、ICFの参加に着目した関わりを開始。他利用者さんと一緒に花壇の手入れや調理活動等に参加し、楽しみを共有できるようになる。お正月には、秋にオアシスの庭で一緒に収穫したクルミでクルミ餅作りを行う。すり鉢でクルミを擦る作業を促すと、とてもいい笑顔が見られ、積極的に作業に取り組む様子が見られた。

現在も、時折施設内を歩き出口を探している様子が見られるが、スタッフが声を掛けると笑顔になり穏やかに過ごす事ができている。

認知症ケアに対して「参加」を通した生きがいがいづくりによって、BPSDが緩和され生き生きとした表情を取り戻すことができた貴重な事例をご報告いたします。